

ストーリーから見えたテーマ

利用体験ストーリーの分析から見えた7つのテーマと問い

第2回ワークショップで町民のみなさんが作成した利用体験ストーリーから見えた仮説と問いから、琴浦町に必要なテーマを7つ抽出しました。各グループに割り当てられたテーマ1つと、グループで選んだテーマの計2つのテーマについてグループで考え、意見を付箋に書いて模造紙に貼りましょう。

テーマ①：親子が安心して過ごせる場をつくる

問い①：当事者だけでなく周囲の人も支援に参加するためにはどうしたらいいだろう

該当するテーマ

1.駅前建物としての顔づくり 2.ひとりひとりの居場所づくり 3.健康・安心なこれからの施設

子どもだけでなく親も居心地がよく、自分の時間を過ごすことができる場所が琴浦町内に不足しており、「親子が安心して過ごせる場」が子育て世代に必要とされているということがうかがえます。また、育児疲れや子育てに悩む親を理解してほしい、という当事者たちの思いに対して、当事者ではなく身近な人や、経験者が、子育て世代の苦労や悩みを認識しており、周囲の人がそれを支えたいという意識が見られます。周囲の人も子育て支援に参加するためにはどうしたらいいでしょうか。

テーマ②：町民が活躍できる場、必要とされる場をつくる

問い②：町民の活躍を可視化するにはどうしたらいいだろう

該当するテーマ 2.ひとりひとりの居場所づくり

時間に余裕があり、新たな人間関係の構築や、やりがいを見つけたいという思いを読み取ることができました。また、その過程で地域とつながり地域に貢献したいという気持ちもうかがえるました。特にシニア層において、社会とのつながり、人とのつながりが不足している現状が推察されます。誰もが活動に参加できるようにするために、町民の活躍を可視化するにはどうしたらいいでしょうか。

テーマ③：待ち時間もポジティブに過ごせる場をつくる

問い③：空間デザインやサービスデザインに加えて、時間をデザインする方法を考えよう

該当するテーマ

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1.駅前建物としての顔づくり | 2.ひとりひとりの居場所づくり | 3.健康・安心なこれからの施設 |
|----------------|-----------------|-----------------|

琴浦町の多くの人々が、浦安駅で電車を待ったり、誰かを待たせた（ネガティブな）経験があり、待ち時間も有意義に過ごせるようにしたいという気持ちを感じられます。また、まなびタウンがせっかく駅前にあるので、立地を活かして気軽に立ち寄れる場所にしたいという思いもうかがえます。電車や人を待つ時間を楽しく過ごせるよう、待ち時間をポジティブに変えるための空間・サービス・時間のデザインを考えましょう。

テーマ④：新しい日常（ウィズコロナ／ポストコロナ）における、人の集まる場をつくる

問い④：新しい人の集まり方を町民とともに創造していく方法を考えよう

該当するテーマ

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1.駅前建物としての顔づくり | 2.ひとりひとりの居場所づくり | 3.健康・安心なこれからの施設 |
|----------------|-----------------|-----------------|

新型コロナウイルス感染拡大の影響によって抑制された閉塞感があり、その反動で、リアルで集まることや、人々と交流しコミュニケーションをすることへの欲求が高まっているのではないかと感じます。自粛による影響は特に子育て世代への負担が大きく、その反動が仮説①にも表れているのではないかと推測されます。新しい日常において、人の集まり方を町民とともに創造していく方法を考えましょう。

テーマ⑤：家・学校・職場以外の「居場所」をつくる

問い⑤：琴浦町らしい、家・学校・職場以外の居場所ってどんな場所だろう

該当するテーマ

2.ひとりひとりの居場所づくり

現状の琴浦町には、家・学校・職場以外の選択肢であるカフェのような場所が不足しており、目的もなく訪れ、時間を過ごせるような場所を求めている人が多いのではないかと思います。金銭的な制限がある学生にとっては、長居できる場も限られているため、規制のない自由な場所が必要で、社会人にとっても、家と会社の往復になっており、切り替えられるような場所を求めていることがうかがえます。みんなが求めている琴浦町らしい、家・学校・職場以外の居場所とはどんな場所なのでしょう。

テーマ⑥：町民の「知る」を支える場をつくる

問い⑥：「知る」を支えるための施設や地域、人、情報はどうつながっていけばよいのだろう

該当するテーマ 1.駅前建物としての顔づくり 2.ひとりひとりの居場所づくり

図書館の本質的な目的である、町民の「知る」を支える場としての在り方を改めて捉えなおしていると思います。将来の進路や、仕事や趣味等、年齢や立場によって様々ですが、新たに学ぶことで豊かな生活を実現したいという明確な目的がストーリーから読み取れます。「知る」を支えるための施設や地域、人、情報はどうつながっていけばいいのでしょうか。

テーマ⑦：琴浦町の魅力を発信する場をつくる

問い⑦：町民協働で持続的に発信していくためにどんな空間・機能、または資料・情報が必要だろうか

該当するテーマ 1.駅前建物としての顔づくり 2.ひとりひとりの居場所づくり

未来の新たな利用者として、町外の人や観光客を広く想像していますが、現状はまちとしての情報発信が不足しており、外に向けた発信をしていきたいという意識が認識できます。一方で、町外だけでなく町内でもまちへの関心の格差があると感じているのではないかと思います。まちの魅力を町民協働で持続的に発信していくために、どんな空間・機能、または資料・情報が必要でしょうか。